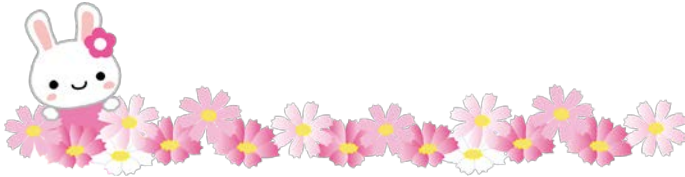


“あれやこれやのできごとと、

それでも生物教育”

園長 高杉 洋史



かわいくなってきてありがとう。

偏食のためペレットのえさしか食べませんで

したが、それでも長生きできました。

人間は偏食はだめだよ。

コスケより

台風でブドウ棚が倒れたり、ユーカリの木が傾いたり、ケヤキの枝が折れたり、キュウリやミニトマトの鉢物が飛ばされたり、葉っぱがちぎれたり：でも、そんなことは大したことではありません。九月十二日に長らくかわいがってもらっていました『コスケ』（ウサギの名前）が死んでしまいました。子どもたちの登園前の時間、ウトウトとうたた寝をしているように見え、「ウサギのうたた寝なんてかわいいね」と話している直後に倒れてしまいました。こんなにコロリと死ぬこともあるのです。さて、ここからが今回のテーマなのですが、コスケの死を子どもたちにどのように伝えるかです。生物教育で先進的などころではダイレクトに子どもたちに向き合わせているところもあります。玄海ゆりの樹幼稚園はどうするかです。園長としてはもつともつと時間がほしいところですが、というのは教諭が哺乳動物の死と向き合う経験をほとんどしたことがないからです。バツタやカマキリ、カブトムシのような昆虫、メダカや金魚、海の魚ではメジナなどの魚類、アカテガニやベンケイガニ、ヤドカリなどの甲殻類、バイガイは二年以上水槽で生き続けましたが、死んでも涙が出るほどではありません。これらの生物とウサギや犬のような哺乳類とは違いがありますね。チャボたちはその中間かな。とにかく哺乳類の死には心が揺れます。特にかわいがればかわいがるほど動揺します。今回、コスケの最後を数人の教諭が目撃し、あまりのあつげなさに呆然としてしまいました。子どもたちに心をこめて話すには教

諭の心の整理時間が必要です。

年少さんは生きることと死ぬことと眠ることの違いをどのように認識しているのでしょうか。年中さんや年長さんはどうなのでしょう。そもそも心はどんなふうにして生まれ、育つのだろう。そんなことを思いながら、あれこれ本を読んでいます。心は自分の体の脳や心臓にあるのではなく、相手とのかかわりの中で生まれはぐくまれるというような文章に巡り合いました。人類が言葉を獲得した時ほぼ同時に数学と音楽を獲得したという著書も読んでいます。言葉と数と音楽と心は密接な関係があるとのこと。そして、ネアンデルタール人が仲間を埋葬したところにキンポウゲやムスカリという花の花粉がたくさん見つかり、「最初に花をめてた人々」という、サイエンスの世界でもロマンチックな話があります。

まだまだ発展途上の玄海ゆりの樹幼稚園です。生物教育に力を入れているとは言いながらウサギのことであつたふたしているところですが、それでも生物を飼い続けます。きっと子どもたちの心を育てる大切な手立てですから。

ここまで読んでくださってありがとうございます。さて、あなたの心はどこにありますか。私の今の心はこの文章を読んでくださるであろう皆様とともに生まれたのかな。きっとそうです。いつもながら、早寝早起き朝ごはん、お箸と鉛筆の持ち方と、子どもたちへの温かなまなざしをよろしくお願いします。

